

SS2009 WG7 ユーザ企業の IT 部門の戦略 ポジションペーパー

2009年6月12日 IPA/SEC 奥 保正

□ 自己紹介

1971年 NEC 入社し、以来 OS 開発、AP 開発、製造・流通・金融ユーザシステム開発支援、3rdパーティ SW ハウス関連対応、ソフトウェアエンジニアリング研究・普及などを担当。2006年より IPA/SEC 研究員としてシステムの信頼性向上のための仕組み、地域・中小企業の IT 利活用レベル向上につき検討、実証、普及に従事。

□ 4つのテーマにつき思うところをメモする。

1. 企業の中で IT 部門に求められること

- ・ビジネスゴールと IT 戦略の一体化

「自社のビジネスゴール達成に必要なシステムは？」について直ぐに答えられる IT 部門になる。

多種多様なステークホルダ（真のユーザは？）、組織特性に合致したアーキテクチャ、時間軸に乗せた戦略（戦術）を明確にする。

2. インソース・アウトソース戦略

- ・企業は、IT システムを構築(or 開発)することが目的ではない。

企業内ユーザ、企業外ユーザを問わず、「何かのサービス」を提供し、それにより、売上増、販路拡大、仕入時間短縮、事務効率化などにより「お金」の流れを変える。

⇒インソースでしか出来ないところ、すべきところを育成 or リクルートを含めて明確にする。

⇒アウトソースは、徹底的にコスト削減を検討する。

3. ユーザとベンダーのマインドのズレ

- ・「マインドのズレ」は「ゴールが異なることから当然」と考える。

この場合の「ユーザ」を企業内 IT 部門（ベンダーへの発注者）という立場とすると

「構築したいシステムの意義をどこまで共有するか」、「利益を共有するパートナーか」など、スタンスをはっきりすることが必須となる。

4. アカデミアとの連携

- ・研究的テーマ（中期的）か成果活用（短期成果）かの視点を明確に。（標準化の視点も重要）

IT 部門がアカデミアと連携する場合は、連携パターンを明確にし、どのパターンでの連携かの意識をアカデミアと共有する（成果の所有権など後でもめないように）。

例) 今抱えている課題 vs. 研究テーマの評価および成果時期

以上